



第150期
報告書

平成29年4月1日～平成30年3月31日



豊かな社会へのパートナー 神栄グループ

SHINYEI 神栄株式会社

証券コード：3004

ごあいさつ

株主の皆さまには格別のご高配を賜り厚くお礼申し上げます。

はじめに過年度決算の訂正を行うこととなった当社の連結子会社である神栄(上海)貿易有限公司における不正な取引行為の問題につきましては、昨年11月に東京証券取引所へ改善報告書を提出し、さらに本年5月にその後の改善状況を記載した改善状況報告書を提出しましたことを報告いたします。今後も当社グループをあげてコンプライアンスの徹底に努めてまいりますので、ご理解賜りますようお願い申し上げます。

さて、第150期(平成29年4月1日から平成30年3月31日まで)の事業の概況につきまして、報告申し上げます。

今後とも格別のご理解とご支援を賜りますよう重ねてお願い申し上げます。

平成30年6月

代表取締役社長

小野 耕司



当期の業績

当連結会計年度における世界経済は、米国では雇用環境の改善により個人消費が堅調で景気回復基調が持続し、また東南アジアにおいても景気の持ち直しの動きがある一方、中国では経済成長の減速傾向が続きましたが、全般的に堅調に推移いたしました。

一方、わが国経済は、企業収益や雇用環境の改善傾向が続くなど緩やかな景気回復基調にあり、個人消費にも回復の兆しが見られるものの先行きは不透明で、海外経済の不確実性や地政学リスクによる影響も懸念される状況にありました。

当社グループにおきましては、平成29年度からの新中期経営計画WAVE“10” Season2を策定し、既存事業において新規取引先や商材の開拓によって厚みのある事業への転換を図るとともに、各事業を融合した新規事業や新製品・新商品の開発を進め、取り巻く環境にかかわらず安定した収益を創出できる基盤を確立す

ることに取り組んでおります。

当連結会計年度における当社グループの売上高は、食品関連と電子関連が増加したものの、繊維関連と物資関連で減少し、全体では43,383百万円（前連結会計年度比5.0%減）となりました。

利益面におきましては、中国や韓国向け空気清浄機用途のホコリセンサの需要が大きく伸びたことにより電子関連が好調でありましたが、その他のセグメントが低調であったことから、営業利益は804百万円（前連結会計年度比21.9%減）、経常利益は617百万円（前連結会計年度比32.8%減）となりました。

また、フィルムコンデンサの取引に関する米国における集団訴訟に対応するための弁護士報酬等を特別損失に計上しましたが、前連結会計年度に比べ特別損失が減少したことから親会社株主に帰属する当期純利益は158百万円（前連結会計年度比16.7%増）となりました。

次期の取り組み

今後の世界経済は、全般的には引き続き堅調に推移するものと見込まれますが、米国と中国との間の貿易摩擦問題や地政学上のリスクなども懸念される状況にあります。わが国経済においても、緩やかな景気回復基調にありながら海外の動向や国内政治局面の影響など不透明な状況にあります。

このような状況下、当社グループは、取り巻く環境にかかわらず安定した収益を創出できる基盤を確立することに加え、保有資産の効率的な活用や在庫の圧縮などにより有利子負債の削減を進めることで、財務基盤を確立してまいります。

繊維関連においては、中国における生産体制の確立と消費者ニーズに基づく販売活動の推進により、差別化された価値のある商品を取扱う独自性のある小規模SPAを目指してまいります。

食品関連においては、新商品の開発や

拠点の拡充により国内販売のさらなる拡大を目指すとともに食材輸出にも注力し、また中国・タイにおける販売体制の確立と取引拡大を進めてまいります。

物資関連においては、海外での防災コンサルティング事業や北米向けをはじめとする輸出事業の拡大、建築金物事業での高付加価値化により事業基盤の確立を図ってまいります。

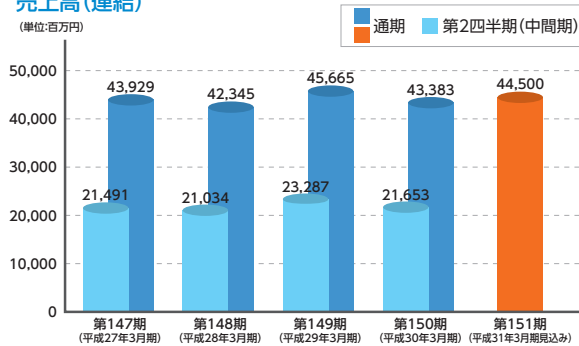
電子関連においては、技術力の向上や保有技術の拡幅に取り組むことで、センサ事業における高付加価値製品の開発、試験機事業の収益安定化およびコンデンサ事業の採算性改善につなげ、事業基盤の拡大を進めてまいります。

以上の取り組みにより、通期の連結業績予想としましては、売上高44,500百万円、営業利益1,000百万円、経常利益800百万円、親会社株主に帰属する当期純利益350百万円を見込んでおります。

財務ハイライト

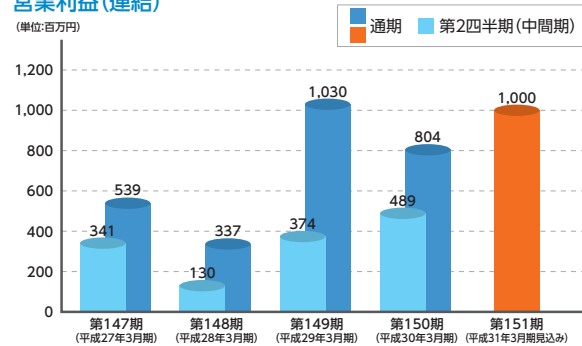
売上高(連結)

(単位:百万円)



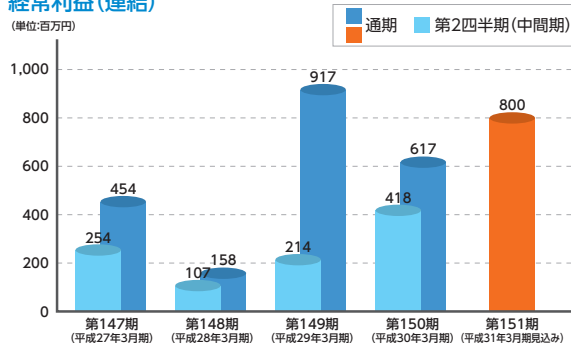
営業利益(連結)

(単位:百万円)



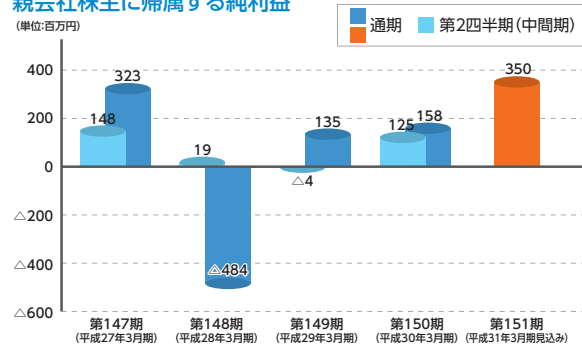
経常利益(連結)

(単位:百万円)



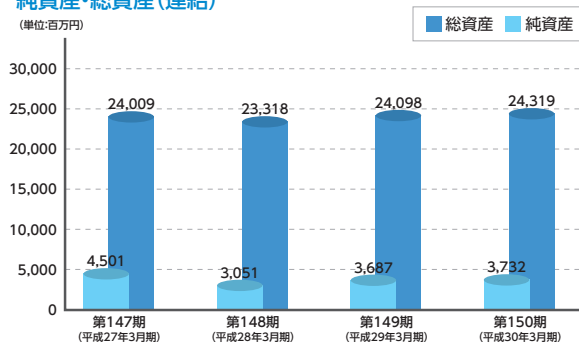
親会社株主に帰属する純利益

(単位:百万円)



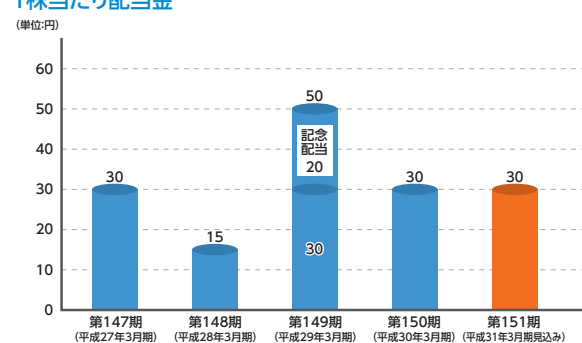
純資産・総資産(連結)

(単位:百万円)



1株当たり配当金

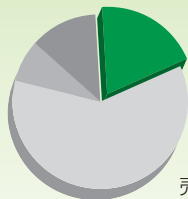
(単位:円)



(注) ① 通年度の決算を訂正したため、第148期から第149期までの売上高等については、訂正後の数値を記載しております。

② 平成29年10月1日付で普通株式10株を1株に併合したため、第147期から第149期までの1株当たり配当金については、株式併合後の1株当たり配当金水準と一致させるため実際の配当金額を10倍にして表示しております。

織 維 関 連



●売上高 8,348百万円

●セグメント利益 △146百万円

売上高



P A T T E R N
f i o n a

繊維業界では、衣料品に対する消費者の節約志向は依然として強く、また生産面では原料費・人件費の高止まりや短納期化・小ロット化により製造コストが上昇するという厳しい環境が続きました。

当社グループのアパレル卸売分野では、アパレル小売分野との企画機能や商品情報の共有を図るとともに、新たな商材開発および顧客開拓に注力した一方で、環境が厳しい中、低採算の取引を縮小したことなどもあり、取扱いは大きく減少し、採算面も悪化しました。

アパレル小売分野では、ウェブストアでの取扱いは堅調であったものの、不採算店舗の退店や天候不順の影響などもあって、全

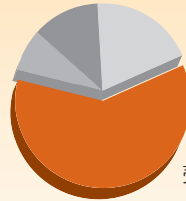
体では取扱いは減少しました。一方で、商品企画・提案力の強化によって質的向上を図り、また仕入コストや経費の削減も進めましたが採算面は若干の改善にとどまりました。

ニット生地分野では、国産素材の開発力や品質については一定の評価を得たものの、国内市況の低迷や安価な海外産への対策の遅れから取扱いは減少し、採算面も悪化しました。

また、レグウェア分野においては、企画機能や提案型営業の強化を進め、在庫の圧縮や経費の削減に注力したものの、天候不順の影響に加えて低採算取引の見直しを行ったこともあって取扱いが減少し、採算面も悪化しました。

その結果、繊維関連の売上高は8,348百万円(前連結会計年度比23.5%減)、セグメント利益は146百万円の損失(前連結会計年度は53百万円の損失)となりました。

食 品 関 連



売上高

- 売上高 26,347百万円
- セグメント利益 1,566百万円



農産部 取扱商品

食品業界の輸入食材を取り巻く環境は、前年度に比べ円安水準であったことから商品原価が

上昇した一方、市場での販売価格は低下して価格競争が激化し、さらに中国をはじめとする仕入国での工場経費や原料費の上昇に加えて、国内の物流コストも増加傾向という状況にありました。

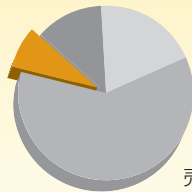
このような環境下、当社グループの冷凍食品分野では、強みである品質管理体制を活かして、高齢化市場としての医療老健施設向けや品質管理要求の高いルートへの販売に注力してまいりました。その結果、冷凍野菜は市場が拡大傾向にある中、シェア確保への取り組みや天候不順に伴う生鮮野菜の高騰の影響等により取扱いが伸長した

ものの、競争激化に加え、為替の影響や物流費の増加により採算面は悪化しました。冷凍調理品では、新商品の投入などシェア拡大に向けた取り組みを継続したほか、外食・量販店向けの提案営業が奏功して取扱いは伸長し、厳しい価格競争はありましたが採算面も改善しました。冷凍水産加工品では、高付加価値商材をはじめとする品揃えの充実によって取扱いが大きく伸長しましたが、原料価格の高騰による利益率の低下により採算面は悪化しました。

農産分野では、ナッツ類は健康志向による需要の増加で取扱いが伸長したことに加え落花生も堅調で、採算面も全体的に改善しました。

その結果、食品関連の売上高は26,347百万円(前連結会計年度比8.0%増)、セグメント利益は1,566百万円(前連結会計年度比8.9%減)となりました。

物 資 関 連



- 売上高 3,339百万円
- セグメント利益 199百万円

売上高



神栄ホームクリエイト(株) 取扱商品
(宅配ボックス)

建設業界は、公共工事を中心とした需要が比較的高水準であった一方で、マンション建築関連の動向は依然として一進一退の状況にありました。その中で当社グループの建築金物・資材分野の取扱いは増加しましたが、競争激化に加え、経費の増加もあり採算面は悪化しました。

生活用品分野においては、テレビショッピング向けの大口納入により取扱いが伸長し

ました。

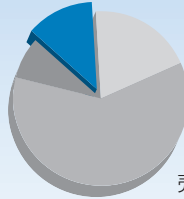
機械機器・金属製品分野では、ベアリング等のハードウェアや北米市場向けの各種試験機の輸出は堅調に推移しましたが、南アジア向け建設機械の大型案件の成約があった前年度と比較して全体の取扱いは大きく減少し、採算面も悪化しました。

その結果、物資関連の売上高は3,339百万円(前連結会計年度比36.4%減)、セグメント利益は199百万円(前連結会計年度比3.3%減)となりました。



産業資材部 取扱商品
(制震ダンパー S-Plus)

電子関連



売上高

- 売上高 5,347百万円
- セグメント利益 529百万円



工業用温湿度変換器

電子部品業界は、自動車用途が欧米や中国向けを中心に堅調で、また海外スマートフォンメーカー向けに加え、製造設備等の産業機器関連需要が好調であり、全体として堅調に推移しました。

当社グループのコンデンサ分野では、音響用途や照明用途が増加したものの、新エネルギー用途や産業機器用途が減少したことから全体で売上は減少しました。一方、採算面は海外工場への製造移管によるコストダウンにより改善しました。

センサ関連機器分野においては、ホコリセンサは中国や韓国向け空気清浄機用途の

需要が順調に推移したことで売上・利益ともに大きく増加しました。また湿度計測機器は産業用途で売上が増加したものの、湿度センサは主に家電向けの競争激化により減少しました。

落下・衝撃試験機分野では、海外の高機能携帯端末メーカー向け落下試験機の受注は順調に推移しましたが、衝撃試験機の新規案件の受注が低調で、全体でも売上が減少し、採算面も海外展開に伴う販売費の増加により悪化しました。

その結果、電子関連の売上高は5,347百万円(前連結会計年度比4.5%増)、セグメント利益は529百万円(前連結会計年度比27.6%増)となりました。

各種電源半導体保護回路用
コンデンサ

連結財務諸表

》連結貸借対照表

(単位：百万円)

科 目	前 期	当 期	科 目	前 期	当 期
	平成29年3月31日 現 在	平成30年3月31日 現 在		平成29年3月31日 現 在	平成30年3月31日 現 在
(資 産 の 部)			(負 債 の 部)		
流 動 資 産	15,348	15,632	流 動 負 債	14,024	14,377
固 定 資 産	8,730	8,672	固 定 負 債	6,387	6,209
有形固定資産	4,507	4,455	負 債 合 計	20,411	20,587
無形固定資産	137	139	(純 資 産 の 部)		
投資その他の資産	4,084	4,078	株 主 資 本	2,837	2,806
繰 延 資 産	20	14	資 本 金	1,980	1,980
			資 本 剰 余 金	1,049	1,049
			利 益 剰 余 金	208	178
			自 己 株 式	△400	△400
			その他の包括利益累計額	846	925
			その他有価証券評価差額金	1,014	1,119
			繰延ヘッジ損益	0	△22
			為替換算調整勘定	△168	△171
			非支配株主持分	3	—
			純資産合計	3,687	3,732
資 産 合 計	24,098	24,319	負 債 純 資 産 合 計	24,098	24,319

》連結株主資本等変動計算書

(平成29年4月1日から平成30年3月31日まで)

(単位：百万円)

	株 主 資 本					その他の包括利益累計額				非 支 配 株 主 持 分	純 資 産 合 計
	資本金	資 本 剰 余 金	利 益 剰 余 金	自 己 株 式	株主資本合計	その他有価証券 評価差額金	繰延ヘッジ 損 益	為替換算 調整勘定	その他の包括 利益累計額合計		
当 期 首 残 高	1,980	1,049	208	△400	2,837	1,014	0	△168	846	3	3,687
当 期 変 動 額											
剰余金の配当			△188		△188						△188
親会社株主に帰属 する当期純利益			158		158						158
自己株式の取得				△0	△0						△0
自己株式の処分		△0		0	0						0
株主資本以外の項目 の当期変動額(純額)						105	△23	△3	78	△3	75
当期変動額合計	—	△0	△30	△0	△30	105	△23	△3	78	△3	44
当 期 末 残 高	1,980	1,049	178	△400	2,806	1,119	△22	△171	925	—	3,732

(注)①過年度の決算を訂正したため、前期の連結財務諸表については、訂正後の数値を記載しております。
②記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

》連結損益計算書

(単位：百万円)

科 目	前 期	当 期
	平成28年4月1日から平成29年3月31日まで	平成29年4月1日から平成30年3月31日まで
売 上 高	45,665	43,383
売 上 原 価	35,956	33,928
売 上 総 利 益	9,708	9,454
販 売 費 及 び 一 般 管 理 費	8,678	8,650
営 業 利 益	1,030	804
営 業 外 収 益	209	138
営 業 外 費 用	321	325
経 常 利 益	917	617
特 別 利 益	206	82
特 別 損 失	772	280
税 金 等 調 整 前 当 期 純 利 益	352	419
法 人 税、住 民 税 及 び 事 業 税	319	227
法 人 税 等 調 整 額	△102	33
法 人 税 等 合 計	216	260
当 期 純 利 益	135	158
親 会 社 株 主 に 帰 属 す る 当 期 純 利 益	135	158

》連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

科 目	前 期	当 期
	平成28年4月1日から平成29年3月31日まで	平成29年4月1日から平成30年3月31日まで
営業活動によるキャッシュ・フロー	677	△511
投資活動によるキャッシュ・フロー	△78	△160
財務活動によるキャッシュ・フロー	△560	352
現金及び現金同等物に係る換算差額	△24	△1
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	13	△320
現金及び現金同等物の期首残高	1,215	1,229
現金及び現金同等物の期末残高	1,229	908

(注)①過年度の決算を訂正したため、前期の連結財務諸表については、訂正後の数値を記載しております。
②記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

個別財務諸表

》個別貸借対照表

(単位：百万円)

科 目	前 期	当 期	科 目	前 期	当 期
	平成29年3月31日 現 在	平成30年3月31日 現 在		平成29年3月31日 現 在	平成30年3月31日 現 在
(資 産 の 部)			(負 債 の 部)		
流 動 資 産	13,571	13,989	流 動 負 債	14,425	14,904
固 定 資 産	10,933	11,022	固 定 負 債	6,054	5,954
有形固定資産	3,215	3,269	負 債 合 計	20,479	20,859
無形固定資産	100	99	(純 資 産 の 部)		
投資その他の資産	7,617	7,653	株 主 資 本	3,035	3,076
繰 延 資 産	20	14	資 本 金	1,980	1,980
			資 本 剰 余 金	1,049	1,049
			利 益 剰 余 金	406	447
			自 己 株 式	△400	△400
			評 価 ・ 換 算 差 額 等	1,010	1,091
			その他有価証券評価差額金	1,009	1,113
			繰 延 ヘ ッ ジ 損 益	0	△22
			純 資 産 合 計	4,045	4,167
資 産 合 計	24,525	25,026	負 債 純 資 産 合 計	24,525	25,026

》個別株主資本等変動計算書

(平成29年4月1日から平成30年3月31日まで)

(単位：百万円)

	株 主 資 本				株主資本 合 計	評 価 ・ 換 算 差 額 等			純 資 産 合 計
	資本金	資 本 剰 余 金	利 益 剰 余 金	自 己 株 式		その他有価証券 評価差額金	繰 延 ヘ ッ ジ 損 益	評 価 ・ 換 算 差 額 等 合 計	
当 期 首 残 高	1,980	1,049	406	△400	3,035	1,009	0	1,010	4,045
当 期 変 動 額									
剰余金の配当			△188		△188				△188
当期純利益			229		229				229
自己株式の取得				△0	△0				△0
自己株式の処分		△0		0	0				0
株主資本以外の項目 の当期変動額(純額)						104	△23	80	80
当期変動額合計	-	△0	41	△0	40	104	△23	80	121
当 期 末 残 高	1,980	1,049	447	△400	3,076	1,113	△22	1,091	4,167

(注)①過年度の決算を訂正したため、前期の個別財務諸表については、訂正後の数値を記載しております。
②記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

》個別損益計算書

(単位：百万円)

科 目	前 期	当 期
	平成28年4月1日から平成29年3月31日まで	平成29年4月1日から平成30年3月31日まで
売 上 高	30,492	30,767
売 上 原 価	25,403	25,757
売 上 総 利 益	5,088	5,009
販 売 費 及 び 一 般 管 理 費	4,580	4,728
営 業 利 益	507	280
営 業 外 収 益	573	1,069
営 業 外 費 用	386	422
経 常 利 益	695	926
特 別 利 益	159	82
特 別 損 失	561	662
税 引 前 当 期 純 利 益	293	346
法 人 税、住 民 税 及 び 事 業 税	137	87
法 人 税 等 調 整 額	△88	29
法 人 税 等 合 計	48	117
当 期 純 利 益	245	229

(注)①過年度の決算を訂正したため、前期の個別財務諸表については、訂正後の数値を記載しております。
 ②記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

トピックス
1

海外子会社における 周年式典の開催

神栄グループ

当社の会社創立130周年となった2017年には、海外子会社3社でも節目となる周年を迎えました。

中国においては、食品事業を営む神栄商事(青島)貿易有限公司が創立5周年、また繊維事業の神栄(上海)貿易有限公司が創立20周年、さらにマレーシアにおいても、電子事業のShinyei Kaisha Electronics (M) SDN. BHD.が創立25周年を迎えました。

それぞれが記念のイベントを行いました。特に神栄商事(青島)貿易有限公司では9月に、また神栄(上海)貿易有限公司でも12月に、それぞれ現地において記念の感謝式典を開催し、日頃よりお世話になっている協力工場、金融機関、公的機関などの皆さまをお招きして謝意を示すとともに、さらなる関係発展をお願いいたしました。

当社グループは、今後とも関係する皆さまからの信頼を大切にしながら、グローバルに事業展開を進めてまいります。



神栄(上海)貿易有限公司創立20周年式典の様子

トピックス
2

『PATTERN fiona』の店舗 リニューアルオープン

神栄ライフテックス(株)

神栄ライフテックス(株)は、婦人服小売事業におけるオリジナルブランド『PATTERN fiona』の直営店、アトレ川崎店(川崎市川崎区)およびペリエ千葉店(千葉市中央区)を、2017年11月にリニューアルオープンいたしました。

アトレ川崎店は同時期になされたJR川崎駅の改修によりアクセスが良くなり、より便利になりました。また、ペリエ千葉店ではファッションブランドが集約されたエリアである「ストリート2」へ移転するとともに売り場面積を拡張し、より多くのアイテムを展開できるようになりました。両店とも、明るく柔らかいブランドイメージに合わせた内装で好評をいただいております。

お客様にご満足いただける商品ラインナップを取り揃えて、多くのご来店をお待ちしております。



PATTERN fiona アトレ川崎店

トピックス
3『2018年秋・冬シーズン
展示会』の開催

神栄ライフテックス(株)

神栄ライフテックス(株)のレッグウェア事業では、本年3月に「2018年秋・冬シーズン展示会」を開催し、多くの取引先の皆さまにご来場いただきました。

吸汗機能等を備えた高機能ソックスや人気キャラクター商品に加え、新たにライセンスを取得したスウェーデン発の人気ブランド「moz sweden」の靴下やカバーソックスなどを展示しました。同ブランドは洗練された北欧のデザインが幅広い層に支持されており、その人気は全国で高まっています。

今後も魅力あるブランドを積極的に活用することによって、お客様に支持される商品を提供してまいります。



「moz sweden」ブランドの靴下とカバーソックス

トピックス
4『骨までまるっ魚』
シリーズの販売を開始

神栄(株)食品部

当社食品部は、従来の取扱商品に加え、高品質・高付加価値の商品展開を進めており、独自のブランドロゴを作成し市場における認知度アップを図っております。

既存ブランドである冷凍野菜・冷凍調理品における「WorldiSh!」(ワールドィッシュ)、冷凍水産加工品における「助っ魚 魚衛門」(すけっとうえもん)に加え、このたび“骨まで食べることができる切身魚”について、「骨までまるっ魚」(ほねまでまるっ)を商標登録し、販売を開始いたしました。

「骨までまるっ魚」は、国内で製造されており、魚本来の風味や身質を維持した商品です。半加工済みであるため調理の手間が少なく、また骨まで食べられ栄養価が高いことから、特に高齢者市場である医療老健施設向けで徐々にニーズが高まっています。

今後ともお客様のニーズにあわせ、他社と差別化した商品を開発してまいります。



新登録商標



調理例

トピックス
5

温泉トマト『ゆのしずく』 の試験販売を開始

神栄アグリテック(株)

神栄アグリテック(株)は、2017年11月に温泉トマト「ゆのしずく」(商標登録済)の試験販売を開始しました。この商品は、同社が、2014年秋に福井県あわら市よりあわら温泉の源泉から直接取水する許可を得て、その温泉水を利用したトマトの栽培を宮崎大学と共同研究しつつ商品開発してきたものです。

あわら温泉はミネラル成分が豊富で、特にナトリウムイオン含有量が「日本名湯百選」中7番目に高いことで知られています。水の代わりにこの温泉水で栽培した温泉トマトは、糖度約10度の高糖度で、またビタミンCやリコペンの含有量が一般的なトマトと比べて約1.5から2倍と高いことが特徴です。

この温泉トマトを「ゆのしずく」と名付け、試験販売としてあわら市内の有名温泉旅館での食材や土産物として提供いたしました。

今後は品質を保持しつつ生産規模を拡大し、本格的な販売とブランドイメージの確立に向けて取り組んでまいります。



温泉トマト「ゆのしずく」

トピックス
6

機能性歯ブラシの 販売を開始

神栄(株)産業資材部

当社産業資材部では、長年にわたり国内外から歯ブラシ用毛材を調達し、国内歯ブラシメーカーに供給してきました。

そのネットワークを活かし、機能性歯ブラシ「クリスタルミスワク」の販売を開始しました。

この歯ブラシは、イスラム世界で口内を清潔にするために使用される天然樹木MISWAK(学名: SALVADORA PERSICA)に、抗菌やホワイトニング、さらには消臭の効果もあるといわれていることに注目し、その天然成分を歯ブラシの毛材に練り込むことを世界で初めて(*)実現した製品です。国内で加工し、国産の特殊セラミックも練り込み、イオン効果により歯磨き粉なしでも十分な洗浄効果を実現しています。

今後、中東や東南アジアをはじめとする各国への輸出のほか、インターネットでの販売についても拡大を図ってまいります。



クリスタルミスワク

※当社調べ 実用新案取得(No.3211072)

トピックス
7セパレートタイプの
宅配ボックスを発売

神栄ホームクリエイト(株)

宅配業者の再配達が社会問題として注目されている中、神栄ホームクリエイト(株)では、多くの新しい特徴を持つ集合住宅用宅配ボックスを開発し本年1月に発売いたしました。

従来一体型であった宅配ボックスを上段と下段で分割できるように改良したことが大きな特徴で、扉数やサイズも利用者のニーズに合わせて自由に組み合わせることができ、階段の下や十分な高さのない場所にも設置が可能になりました。

設置面積も従来品の70%に削減したことで場所を取りません。また通信販売で多く扱われるDVD、書籍など小型の荷物用に横幅220mmのスリムタイプを開発し、狭いスペースでも有効に活用いただけるようにしました。屋内型に加え半屋外にも設置できる防滴型も品揃えしております。

今後も様々なニーズに対応した製品を開発し、販売を拡大してまいります。



セパレートタイプの宅配ボックス

トピックス
8国内最大規模の
空調関連展示会へ出展

神栄テクノロジー(株)

神栄テクノロジー(株)は、本年2月27日より4日間にわたって幕張メッセで開催された「ヒーバック&アール ジャパン2018」(冷凍・空調・暖房展)に出展いたしました。この展示会は日本最大級の空調関連展示会で、今回は企業・団体約210社が出展し、来場者は4日間で2万5千人にも及びました。

同社は湿度計測事業の主力製品である鏡面冷却式露点計や、新製品のTDLAS式露点水分計を展示しました。また、TDLAS式露点水分計に関しては、特設会場でのプレゼンテーションや、同社ブースにて水分の測定速度を披露するデモンストレーションを行いました。当展示会には初出展でしたが、空調関連企業に同社とその取扱製品を広くご認識いただくことができました。

当展示会で得た情報を基に、顧客ニーズを取り入れ、今後さらなる製品開発に繋げてまいります。



「ヒーバック&アール ジャパン2018」展示ブース

株式の状況

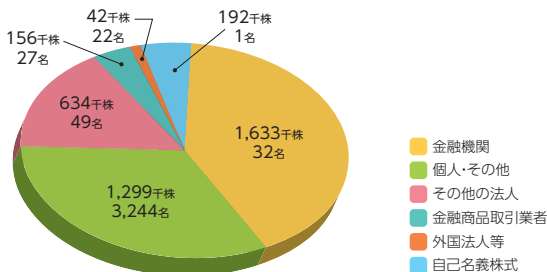
(平成30年3月31日現在)

- 発行可能株式総数 12,000,000株
- 発行済株式の総数 3,960,000株
- 株主総数 3,375名
- 大株主(上位10名)

株主名	当社への出資状況 持株数(持株比率)
あいおいニッセイ同和損害保険株式会社	242千株 (6.42%)
株式会社三井住友銀行	187 (4.98)
株式会社三菱東京UFJ銀行	187 (4.98)
株式会社みなと銀行	180 (4.80)
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社	175 (4.66)
農林中央金庫	165 (4.38)
株式会社ノザワ	122 (3.25)
日工株式会社	102 (2.71)
株式会社さくらケーシーエス	101 (2.68)
神栄グループ従業員持株会	98 (2.62)

- (注) 1. 上記の持株数のうち、信託業務に係る株式数は、次のとおりであります。
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 175千株
2. 持株比率は、自己株式数(192,536株)を控除して算出しております。
3. 当社は、平成29年6月28日開催の第149回定時株主総会決議に基づき、平成29年10月1日を効力発生日として、普通株式10株を1株とする株式併合を行っております。これにより、発行可能株式総数は108,000,000株減少し、12,000,000株となり、発行済株式総数は35,640,000株減少し、3,960,000株となっております。
4. 株式会社三菱東京UFJ銀行は、平成30年4月1日付にて商号変更し、株式会社三菱UFJ銀行となりました。

所有者別分布状況



会社概要

(平成30年6月27日現在)

- 社名 神栄株式会社(英文: SHINYEI KAISHA)
- 本社 〒651-0178
神戸市中央区京町77番地の1
- 設立 明治20年(1887年)5月24日
- 資本金 1,980百万円
- 従業員(連結) 633名(平成30年3月31日現在)
- 取扱商品・製品・サービス(連結)
 - 繊維関連 繊維製品、原糸
 - 食品関連 冷凍食品、水産物、農産物
 - 物資関連 金属製品、機械機器、建築資材、
建築金物、生活雑貨、防災関連資機材、
不動産業、保険代理店業
 - 電子関連 電子機器、センサおよび環境機器、
電子部品、測定機器、試験機
- 事業所
 - 支店 東京支店、福岡支店、香港支店
 - 研究所 神栄グループR&Dセンター
神栄グループあわら農業センター
 - 営業所 沖縄営業所、名古屋営業所
 - 海外事務所 北京、ホーチミン、バクー
- 子会社
 - 神栄テクノロジー(株)
 - 神栄キャパシタ(株)
 - 神栄リビングインダストリー(株)
 - 神栄ライフテックス(株)
 - 神栄テストマシナリー(株)
 - 神栄ホームクリエイト(株)
 - 神栄アグリテック(株)
 - ShinYEI Corp. of America (米国)
 - 神栄(上海)貿易有限公司(中国)
 - ShinYEI Kaisha Electronics (M) SDN. BHD. (マレーシア)
 - 神栄商事(青島)貿易有限公司(中国)
 - ShinYEI (Thailand) Co., Ltd. (タイ)

役員

(平成30年6月27日現在)

代表取締役 兼社長執行役員	小野耕司
代表取締役 兼専務執行役員	赤澤秀朗
取締役 兼常務執行役員	高田清
取締役 兼常務執行役員	奥村聡
取締役 兼執行役員	中川太郎
取締役 兼執行役員	山水教賢
*取締役	萩尾千里
*取締役	佐藤雄一
常勤監査役	佐塚直隆
**監査役	大森右策
**監査役	田中敏彦
執行役員	谷口博一
執行役員	奥村武久
執行役員	長尾謙一
執行役員	中西徹
執行役員	岸本勝

(注) *印は、社外取締役であります。

**印は、社外監査役であります。

ウェブサイトリニューアルのお知らせ

本年4月に当社ウェブサイトを更新いたしました。見やすいサイトデザインに変更するとともに、目的のページへの移動がスムーズに行えるようアクセス性の向上を図っております。
(<http://www.shinyei.co.jp/>)

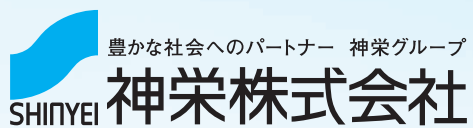
株主メモ

- 事業年度 毎年4月1日から翌年3月31日まで
- 基準日 定時株主総会 3月31日
剰余金の配当(期末配当金) 3月31日
- 定時株主総会 毎年6月
- 株主名簿管理人・特別口座の口座管理機関
東京都千代田区丸の内1丁目4番5号
三菱UFJ信託銀行株式会社
〒541-8502
大阪市中央区伏見町3丁目6番3号
三菱UFJ信託銀行株式会社
大阪証券代行部
電話 0120-094-777 (通話料無料)
- 同連絡先 (お問合せ先)
電子公告
当社ウェブサイト
(<http://www.shinyei.co.jp/>)に掲載
ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載
- 上場証券取引所 東京証券取引所
- 証券コード 3004

※株主様の住所・氏名のご変更、配当金受取方法のご指定、单元未満株式の買取請求・買増請求などの各種お手続きにつきましては、口座を開設されている証券会社にお問合せください。

※特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、特別口座の口座管理機関である三菱UFJ信託銀行にお問合せください。また、三菱UFJ信託銀行本支店においても、お取次ぎいたします。

※未受領の配当金につきましては、株主名簿管理人である三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。



見やすく読みまちがえにくい
ユニバーサルデザインフォント
を採用しています。



自然保護のため
再生紙を使用しています。